

「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」の記述式のセンター・大学共同採点【案3】に関し、問題数・文字数、採点期間等も勘案しつつ、以下の論点への対応について明確化する必要。

1. センターと大学との役割分担

大学への提供データの範囲や採点工程について【別紙1】

2. センターから大学への提供方法に関する工夫

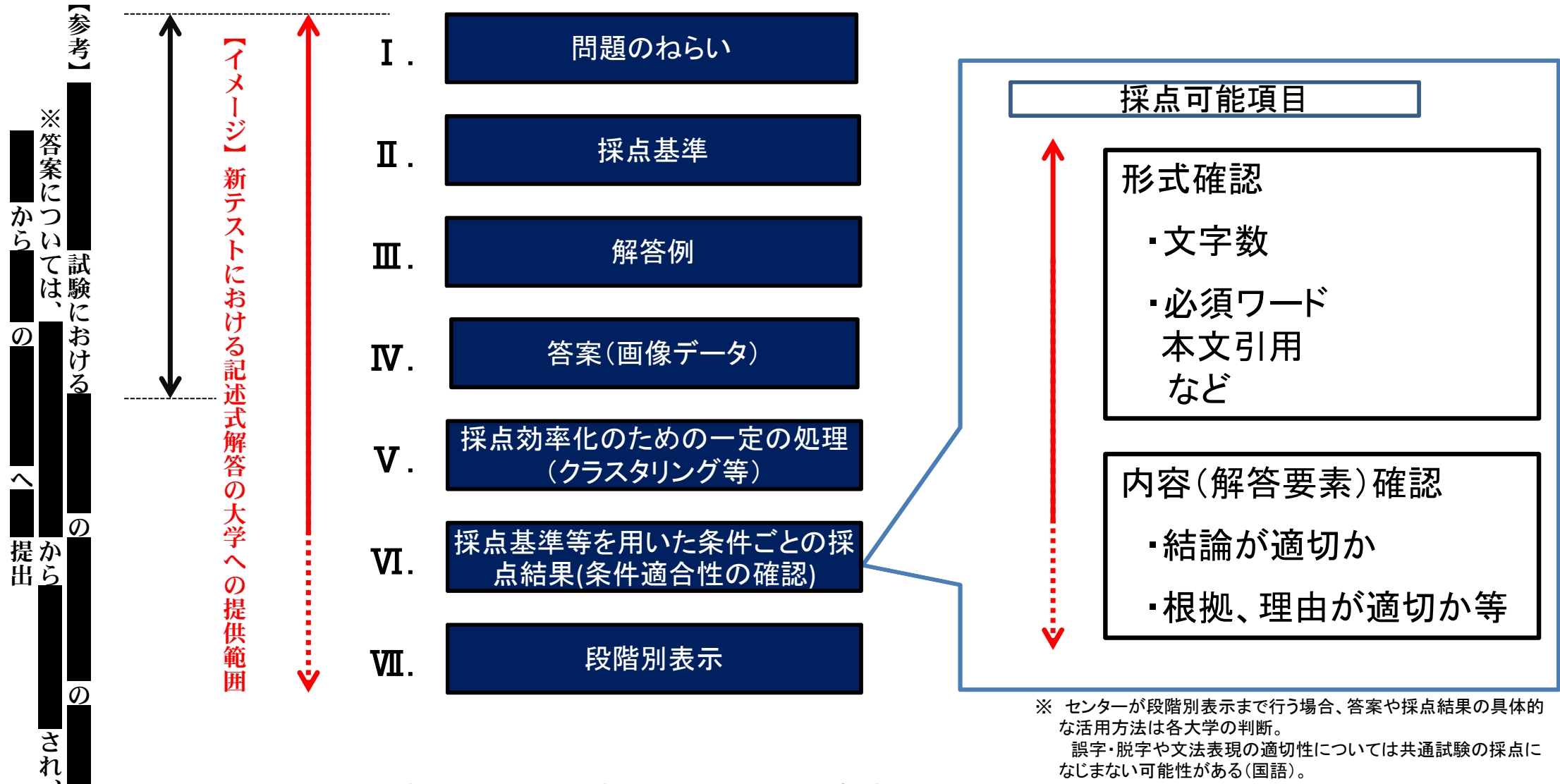
国公立大学を通じて、できるだけ記述式を利用してもらう方策について【別紙2】

3. 大学における活用に関する工夫

大学における答案や採点結果の活用に関する工夫について【別紙3】

※上記1.～3.を踏まえつつ、センター・大学共同採点における実施方法・時期のイメージは【別紙4】のとおり。

- センターと大学が共同で採点を実施する場合、センターと各大学の作業分担の整理が必要。
- 特に、「VI. 採点基準等を用いた条件ごとの採点結果」や「VII. 段階別表示」の採点工程について、設問内容により各大学がどの部分を担うか調整する必要。なお、大学における採点効率化のための採点システムなどの必要性については大学のニーズに応じ今後検討。

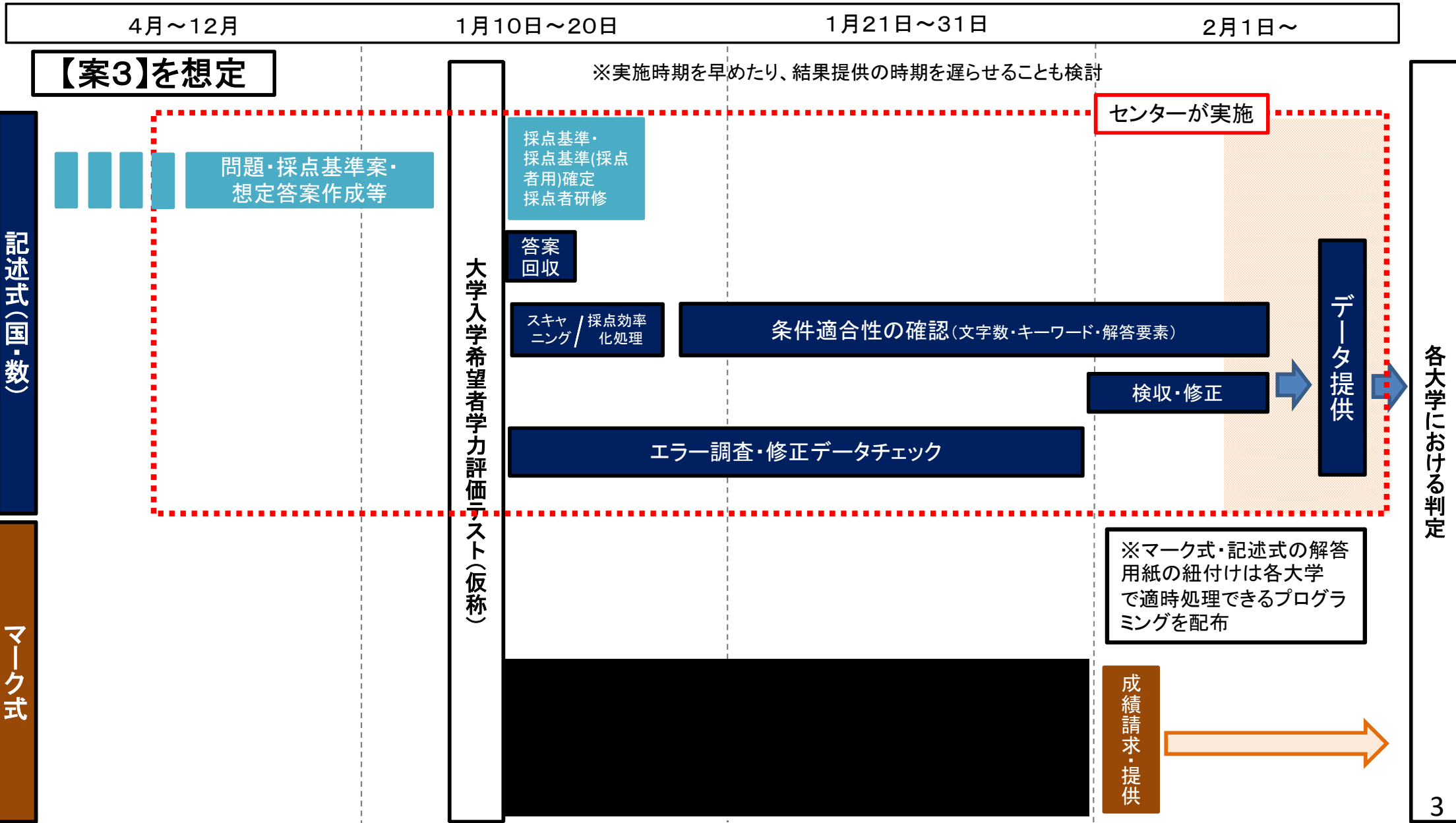


※採点については、採点者による採点(目視採点)を行うことを想定。

※ センターが段階別表示まで行う場合、答案や採点結果の具体的な活用方法は各大学の判断。
誤字・脱字や文法表現の適切性については共通試験の採点になじまない可能性がある(国語)。

記述式・マーク式の各採点工程（イメージ）＜センター・大学共同採点①＞【たたき台】

○ センターが解答の内容(解答要素)についても一定の条件適合性の確認を行った上で(段階別表示を行うことを含む)、大学に提供。具体的な活用方法は、各大学の判断に委ねる。



記述式・マーク式の各採点工程（イメージ）＜センター・大学共同採点②＞【たたき台】

○ センターが解答について、条件適合性(形式面)の確認を行い、各大学にデータを提供。各大学が必要に応じ独自の採点を行う。

4月～12月

1月10日～20日

1月21日～31日

2月1日～

【案3】を想定

※実施時期を早めたり、結果提供の時期を遅らせることも検討

センターが実施

問題・採点基準案・
想定答案作成等

採点基準・
採点基準(採点
者用)確定
採点者研修

答案
回収

スキャ
ニング / 採点効率
化処理

条件適合性の確認(文字数・キーワード等)

デー
タ提供

各大学における独自の採点

検収・修正

エラー調査・修正データチェック

※マーク式・記述式の解答
用紙の紐付けは各大学
で適時処理できるプログラ
ミングを配布

成績請求・提供

各大学における判定

記述式(国・数)

マーク式

大学入学希望者学力評価テスト(仮称)

大学での記述式採点方法のイメージ

- センターが一定の処理を行ったうえで、大学に記述式採点を委ねる場合、大学ではどのような採点方法が考えられるか。
- 特に、記述式採点のノウハウがない大学については、コンソーシアムによる採点などの方策も考えられるか。

大学採点	大学採点の方法	イメージ(例)
する	大学のリソースを活用	■ 自校の大学教員が採点 (①教科の専門教員の場合、②他の専門領域の教員も含む場合)
	大学間コンソーシアムを活用	■ 地域の大学間が連携して、ノウハウを持ち寄り一括採点
しない	センターの評価をそのまま利用	■ センターが行う評価のみ活用

各大学における採点の対応について（考えられるイメージ例）

1. 前提

- 国語(3問(40～80字程度))、数学(3問(数式等))の記述式問題の解答を採点。
- 大学入試センターにおいて、①文字数や、②必須ワードや本文引用等の機械的な評価になじみやすい条件適合性(形式面)の確認を行い、各大学で内容に関する採点を実施。
- 大学入試センターから、第1次採点基準(受験生の自己採点のための大まかな基準)、第2次採点基準(採点者のためのより精緻で具体的な基準)、正答例等を提供。(参考1)

2. 採点の体制

- 採点体制
 - ・学部単位又は全学規模での採点体制を組む。
 - ・国語、数学の内容に関する評価となるため、国語や数学の専門性の高い教員による採点が理想的。
 - ・個別選抜で当該教科を採点をしていない学部・大学については、例えば以下のような対応が必要。
 - ①全学的な体制を組んで採点を行う、
 - ②大学間コンソーシアム等を組織して採点を行う。
- 採点人数:数名～数十名。
- 採点期間:2～数日(個別選抜の採点より短い期間で終了)
- 採点手順
 - ①答案をざっと見る(半日～1日)
 - ②大学(学部・学科)における採点基準(第3次採点基準)の協議(数時間)
 - ③第1回採点(基準に沿わない例外が生じた場合は、再度協議)(1～3日)
 - ④第2回採点(独立2回採点/ネガティブチェックなど)(半日～1日)
(個別選抜とほぼ同じ)

3. 他の専門領域の教員が採点する場合(専門の教員だけでは採点できない場合)

以下のような方法が考えられる。

- ①全学での採点体制を整え、国語、数学の専門性を有する者を確保して採点を分担する。(大学間コンソーシアムを組織する等の方法も検討か)
- ②複数採点者による合計点で判定、又は、複数採点者間での乖離の大きな採点を専門領域の教員の判定に委ねるなど。

※二次試験で国語等を課していない国立大学(参考2)

出題のパターン(例)

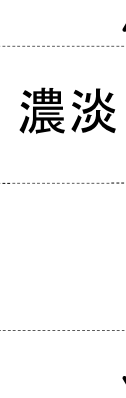
- ① 対話文の間の に解答
- ② α に対して、 β …の形式で解答

求める解答のパターン(例)

A テキストからの抜き書き

(理想的な解答のパターン)

B 文を創作する



○バラツキが少ない
▲選択式と差がない

(理想的な特徴)

○バラツキが多い
▲採点困難



採点基準

- 1 正答例の妥当性
情報提供する正答例
→1つか、2つか？
- 2 正答例に基づく判定の難易

第1次基準(センター公表)

・受験生の自己採点のための大まかな基準

第2次基準

・採点者のためのより精緻で具体的な基準

第3次基準(各大学公表)

・採点に関する情報提供(来年度以降の受験生への情報提供)

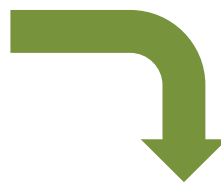
二次試験で国語等を課していない国立大学

(参考2)

※注 ○は一部学部・学科で総合問題を課していることを表す。
▲は一部学部・学科で小論文を課していることを表す。

○二次試験で国語を課していない国立大学:27大学

室蘭工業		長岡技術	
帯広畜産	○	上越教育	▲
旭川医科	▲	浜松医科	▲
北見工業		名古屋工業	▲
茨城	▲	豊橋技術	
筑波技術	▲	滋賀医科	▲
群馬	▲	京都工業繊維	○▲
東京医科歯科	▲	大阪教育	▲
東京外国語		兵庫教育	▲
東京農工		鳥取	○▲
東京工業	○	鳴門教育	▲
東京海洋	▲	九州工業	
電気通信		鹿屋体育	
横浜国立	○		



※うち、総合問題も小論文も課していない大学:9大学

室蘭工業
北見工業
東京外国語
東京農工
電気通信
長岡技術
豊橋技術
九州工業
鹿屋体育

○二次試験で数学を課していない国立大学:5大学

東京外国語
東京芸術 (▲)
上越教育 (▲)
兵庫教育 (▲)
鹿屋体育

○二次試験で国語も数学も課していない国立大学:4大学

東京外国語
上越教育 (▲)
兵庫教育 (▲)
鹿屋体育

- 国公立大学を通じて、できるだけ記述式の結果を利用してもらう方策を考える必要
- 特に、AO・推薦入試のセンター利用大学や合格発表時期の早い大学に対してどのような結果をいつまでに提供できるか検討する必要
- 例えば、優先順位をつけて提供する方策は考えられないか。

※提供に時間がかかる主な要素

主な要素	必要日数
■ 解答用紙と解答した本人の番号が正しく紐付けられているか確認・修正 (例) 受験番号のマーク漏れ、マークミス、マーク読取不可	10日間
このほか、成績提供その他の処理	5日間
■ 採点や条件適合性の判定	問題数・採点内容による

現状分析

- 試験会場単位で読み取り作業
- 全ての受験番号がそろったうえで重複チェック
- 追試験分(本試験1週間後)も合わせて確認する必要
- 受験番号のマーク漏れ・マークミスが一定程度存在(4,000件/年)

可能な限り短縮する方策や優先順位をつけて提供する方策を検討

考えられる方策

■ 段階的に採点結果を提供できないか？

→例えば、AO・推薦や合格発表時期の早い私大向けには、2月初旬に一定の採点結果(例:国語(80文字)1問、数学(数式)2問など)を提供し、国立大学には、2月下旬にすべての採点結果を提供するなど

件数にもよるが、優先答案については、2月初旬に成績提供することを目指してセンターと調整

※これらのほか、希望する大学に対して、答案のみ送付することも考えられる。

- 記述式の答案や採点結果の活用について、各大学の工夫としてどのような取組が考えられるか。国がどこまで具体的に示すか。

① 大学において採点する場合

(例)

- マークシート式で一定の点数以上の答案を採点し、個別選抜の結果とともに活用
- ボーダーライン上の受験生の答案のみ採点し、合否決定に活用
- 一定段階以上の記述式の評価を合否の条件として活用

② 大学における採点を行わない場合(センターの段階別表示を活用)

(例)

- マークシート式と併せて記述式の評価の比重をどうするか大学で判断の上、活用
- ボーダーライン上の受験生の合否決定に活用
※例えば、ボーダーライン上の学生について、記述式の評価が一定以上の学生を優先的に合格など
- 一定段階以上の記述式の評価を合否の条件として活用



各大学のアドミッションポリシーに基づいた様々な対応が考えられるため、具体的な採点や活用方法は、各大学に委ねることが適當。

センター・大学共同採点における実施方法・実施時期のイメージ(たたき台)

1月

2月

3月

13日以降の最初の土日
→2週目の最初の土日に変更

1/13、14

1/24

答案回収・データ読込・受験番号
確認など:約10日程度

国語80字2問
数学数式3問

これ以上の文字数・問題数の拡大も可
(ただし、試験時間との関係に留意)

1/24

答案回収・データ読込・受験番号
確認など:約10日程度

国語80字2問
数学数式3問

センターにおける条件適合性(形式面)
の確認(P)＜センターにおいて検討中＞

1/24

答案回収・データ読込・受験番号
確認など:約10日程度

国語80字1問目
数学数式
1問目と2問目

センター採点:約20日程度

国語80字2問目
数学数式3問目

センター採点:約20日程度

センター採点:約5日
程度

2/23頃

各大学で活用

※形式面の確認のみであれば、大幅に短縮

AO入試
推薦入試

個別学力検査(実施:2月1日～)

各大学採点

各大学採点

合格発表

各大学で活用

国公立前期・後期出願受付
(1月25日～2月3日)

マークシート
国公立大学への成績提供(2月2日～)
私立大学への成績提供(1月31日～)

国立大学第一段階選抜結果発表(2月10日)

国立大学のAO・推薦入試の合格発表
(センター試験利用)(2月10日まで)

国公立前期試験(2月25日～)

国公立前期合格発表(3月1日～3月10日)
(※国立は6日)

高校卒業式(3月上旬)

公立中期試験(3月8日～)

国立後期試験(3月12日～)

公立中期合格発表(3月20日～3月23日)

国立後期合格発表(3月20日～3月24日)

大学入学希望者学力評価テスト(仮称)

① 答案のみ送付

② センターが形式面の確認等を行う場合(各大学が内容面の採点)

③ センターが一定の段階別表示まで行う場合(具体的な活用方法は各大学の判断)